

おぼんの準備

新見市立刑部小学校

六年 山 中 慎 太

今年は、日本各地で四十度近いもう暑が続いています。外からセミが「ミンミンミン」と耳鳴りがするくらいなく声を聴いていると余計に暑さを感じてしまいます。そんな八月の初めごろになると、ぼくの家ではおぼんの準備が始まります。

初めに、外の準備からです。家の周りの草刈りや草取り、そうじなど家族みんなで協力してきれいにします。ぼくや弟は、お父さんが草刈りをした草を集めたり、おばあちゃんやの抜いた草を集めて捨てたりします。きれいになったころには、みんな暑すぎて顔が真っ赤になって、体中が汗でびしょびしょになっています。次に、家の中の準備をします。ぼんちようちんを組み立てたり、きゅうりとナスで馬と牛を作ったりします。最後に、家族みんなでむかえ火をときます。お盆の準備はいろいろとたくさんあって、長い時間がかかります。でも、がんばってやり終えた後はとてもきれいになるので気持ちがいいです。そして、ぼくはご先祖様が帰ってくるのが楽しみになって、ワクワクします。ぼくは、古いご先祖様には会ったことがないので分かり

ません。でも、大好きだったおじいちゃんと大きいおばあちゃんのことはい思い出せません。おじいちゃんは、いつも優しく、器用な人でした。ぼくが行きたい場所にはどこへでも連れて行ってくれました。こわれたぼくのおもちゃを直して元通りしてくれました。こども園の送げいもしてくれて、おじいちゃんの姿が見えるとうれしくてだきついていました。大きいおばあちゃんはぼくの話をもいつもニコニコとうなずきながら聞いてくれました。そして、話の最後には「がんばれよ。」といつもはげましてくれました。

そんな二人とも、今のぼくからは見えません。話したり一緒にご飯を食べたりすることもできません。しかし、「ご先祖様には会えなくても、家族みんなに災いがないようにいつも見守ってくれているんだよ。」と、おばあちゃんは教えてくれます。「毎日家族みんなが元気に過ごすことができるのは当たり前のことではなく、ご先祖様が守ってくれているからだよ。」と、お父さんも教えてくれます。

「だから、家やお墓をきれいにそうじして、ご先祖様に感謝の気持ちを伝えることが大事だよ。」と、お母さんが教えてくれました。

家族から教わったように、これからもご先祖様に感謝する気持ちを大切にしていきたいです。大好きだったおじいちゃんや大きいおばあちゃんと過ごせるおぼんを、家族の大切な行事にしていきたいです。来年も、再来年も、おぼんの準備を進んでがんばります。